

頁	号
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8
9	9
10	10
11	11
12	12
13	13
14	14
15	15
16	16
17	17
18	18
19	19
20	20
21	21
22	22
23	23
24	24
25	25
26	26
27	27
28	28
29	29
30	30
31	31
32	32
33	33
34	34
35	35
36	36
37	37
38	38
39	39
40	40
41	41
42	42
43	43
44	44
45	45
46	46
47	47
48	48
49	49
50	50
51	51
52	52
53	53
54	54
55	55
56	56
57	57
58	58
59	59
60	60
61	61
62	62
63	63
64	64
65	65
66	66
67	67
68	68
69	69
70	70
71	71
72	72
73	73
74	74
75	75
76	76
77	77
78	78
79	79
80	80
81	81
82	82
83	83
84	84
85	85
86	86
87	87
88	88
89	89
90	90
91	91
92	92
93	93
94	94
95	95
96	96
97	97
98	98
99	99
100	100

159

国境を跨ぐ個人の移動と所得課税	序説		一	二九	宮本十至子
— EUにおけるリモートワークの動向を中心に—					
居住用マンションの評価に関する一考察			一	一三	渋谷雅弘
企業グループ内再保険取引の正確な把握とCFC税制			一	一三	辻美枝
— 米国制度を参考に—					
デジタルインボイス (E-Invoicing)			一	一八	松原有里
— 電子インボイスの先にあるもの—					
終局的な義務者でない者による義務履行に関する一考察			一	二七	測圭吾
— 租税の徴収納付制度を中心に—					
不相当に高額な役員給与の損金不算入規定についての一考察			一	三七	西本靖宏
国境を越えた現物出資をめぐる課税問題 (再論)			一	二九	吉村政穂
国際租税法における受益者要件 (Beneficial Ownership)			一	二九	阿部雪子
— OECDモデル租税条約第一二条 (ロイヤルティ) を検討して—					
租税に関するデータ移転とデータ保護			一	三〇	高橋里枝
— EUにおける税務執行共助指令とデータ保護法制を素材として—					
自己恩赦の憲法適合性			一	三九	大林啓吾
— アメリカ大統領の恩赦権を素材として—					
租税に関する国際的情報交換と調査国におけるデータ保護権による審査			一	三三	漆さき
フランスの相続税について			一	四〇	平川英子
租税法と既得権益			一	四〇	浅妻章如
— カリフォルニア州の Proposition 13をきっかけに—					

持株会社とE・U付加価値税	一四三	酒井 貴子
— 欧州司法裁判所先決裁定を素材として —		
南北問題と租税法	一四〇	増井 良 啓
— グローバルサウスの声にどう向き合うか —		
Summary and Some Observations about Robotic Era Public Finance: On the Retirement of Professor Yoshimura Norihisa	一四四	SRIKUNHOAT, Sumet
競争法的視点からの労働関係における競争禁止特約	二	植 田 達
— アメリカ連邦取引委員会による競争禁止条項規則を素材として —		
What-Matters in Politics (I) Some Preliminary Thoughts on How to Think Globally About Politics and Political Thought	二一〇	TUNTSUMBAYASHI, Ken
死刑の執行を巡る運用上の諸問題	三一〇	太 田 達 也
— 被害者の視点から見た死刑制度の問題も含めて —		
再説・民法改正と債権譲渡の「権利行使要件」	四	池 田 眞 朗
— 「対抗要件具備時」の真の問題 —		
黒田清隆と明治八・九年の外交・内政	四	久 保 田 哲
— 「大久保政権」の構造をめぐって —		
暗号資産の法的性質について	五	岩 川 隆 嗣
— 「財産権」概念を通じて —		
“War Cannot Be Localized”: Sjahrir, Cosmopolitanism, Global Visibility	六	YAMAMOTO, Nobuto
日仏憲法学比較の視点から見た法・道徳・政治の緊張と融合	七一	山 元 一

日本における気候訴訟とその法的問題		八	一	三	上 威 彦
—— 民事訴訟法上の視点から ——					
小幡篤次郎の「中等社会」構想と士族観		八	二	元	姜 兌 玟
「文藝懇話会」をめぐる文人佐藤春夫と新官僚松本学 (一)		九	一	一	玉 井 清
—— 戦間期日本における「国家」を越えた概念への模索と錯綜 ——					
「文藝懇話会」をめぐる文人佐藤春夫と新官僚松本学 (二・完)		十	一	一	玉 井 清
—— 戦間期日本における「国家」を越えた概念への模索と錯綜 ——					
What-Matters in Politics (2): Some Preliminary Thoughts on How to Think Globally About Politics and Political Thought		十	一	一	植 田 達
労働契約における競業禁止義務の要件事実論的分析		十	一	一	磯 部 靖
The World Came to You: A Portrait of Colonial Cosmopolitanism in Southeast Asia		十	一	一	出口 雄 一
現代中国における地方統治体制		十	一	一	
—— 大区制度を通じた統治の展開 ——					
日本法理研究会への道		十	一	一	
—— 思想犯保護と「法道一如」 ——					
「あるべきもの ce qui doit être」の学から「有用性 utile」の学へ：フランス中間法時代の		十	一	一	
サヴォワにおける法教育の実相		十	一	一	
—— アンテルム・マランの講義筆記をめぐる ——					
戦時下における丸山義二の農民文学に見える法律問題		十	一	一	
「No Lombroso 委員会」について		十	一	一	
新律綱領における八虐六議と賊盗律謀反大逆条の削除について		十	一	一	

夫婦創姓制度という選択肢	……………	三一七	吉田成利
内密出産と「出自を知る権利」をめぐる現状と課題	……………	三二三	田中佑季
——韓国「危機的妊娠保護出産法」を手がかりに——	……………		
日本統治下の台湾における法文上から見たる妾の法的位置づけ	……………	三二五	西田真之
刑事附帯民事から見る律の民刑	……………	三七七	高田久実
慶應義塾の法律相談所	……………	三七七	加藤学陽
——戦前期法律鑑定部の創設と展開——	……………		
近代中国における「統治権」概念と天命倫理	……………	三三五	呉迪
昭和戦前期農業政策としての世襲財産法	……………	三八一	白石大輝
オイゲン・フーバー書簡からみた民法典編纂後のドイツ法学界	……………	四〇〇	小沢奈々
——日独瑞比較法学史を目指して——	……………		
福沢諭吉の文明観と人間観	……………	四〇六	坪川達也
——進化心理学からのもう一考——	……………		
ラブレの泉とサン・ステイ殿についてのエッセー	……………	四〇八	岩下綾
GPS電子監視によるストーカーと犯罪被害者の安全確保	……………	四一四	太田達也
最終講義	……………		
中国共産党研究四十年	……………	四七五	高橋伸夫

研究ノート

民主主義と公共性

.....

三 一大石 裕

資料

メタバースにおけるアバター

.....

三 五 麻生 典 / 訳
デジタリ・メビウス・カネト

— その法的含意についての考察 —

小規模企業のための特別な倒産手続

.....

四 五 シュテファン・マダウス

— それは望ましいか、あるいは必要でさえあるか? —

EU、ドイツ、そして日本における倒産前の再建手続?

.....

五 一 シュテファン・マダウス

藤井伊右衛門日記①

.....

六 一 玉 木 寛 輝

— 翼賛政治体制協議会長長野支部と在郷軍人 —

民事裁判の効率性と法的保護の問題への迅速な対応をめぐる課題

.....

六 二五 マルコ・デ・クリストファロ

— 現在のイタリアの状況における永遠の課題 —

イタリアの法制度における裁判官と法律の関係

.....

七 二七 マルコ・デ・クリストファロ
セレナ・フランコ / 訳
芳賀雅顯 / 監訳

韓国 の 保 安 処 分 制 度 の 運 用 現 況 と 法 的 争 点 —— 性 犯 罪 を 中 心 に ——	七	安 成 訓 太 田 達 也 / 解 説
債 権 者 の 利 益 の た め の 強 制 執 行 法 と 企 業 の 利 益 の た め の 倒 産 法	八	マ ル コ ・ テ ァ ・ ク リ ス ト フ ァーロ 三 上 威 彦 / 訳
韓 国 ・ ス トー キ ン グ 対 策 二 法 及 び 電 子 監 視 法 (邦 訳)	八	太 田 達 也 / 訳・解 説
韓 国 の パ プ リ シ ティ 権 立 法 へ の 批 判 —— 不 正 競 争 防 止 法 を 中 心 に ——	十	南 馨 斗 田 島 哲 夫 / 訳 張 睿 暎 / 監 訳 君 嶋 祐 子 / 解 説 大 森 正 仁 / 訳
国 際 紛 争 の 平 和 的 解 決 に 関 す る 議 定 書 (ジ ュ ネー ヴ 議 定 書)	十	
日 仏 人 格 権 シ ン ポ ジ ウ ム 「 人 格 権 お よ び 人 の 法 の 新 た な 展 開 」 解 題	十	片 山 直 也 / 監 修 ム ス タ フ ァ ・ メ キ 林 湜 起 / 訳
環 境 問 題 を め ぐ る 基 本 権 の 新 た な 展 開 —— 気 候 訴 訟 を 例 と し て ——	十	
国 境 を 越 え る 人 格 権 保 護	十	ベ ル ナー ル ・ ア フ テ ル 大 塚 智 見 / 訳
自 然 は 法 的 な 「 人 」 た り う る か ?	十	フ レ デ リ ッ ク ・ ビ シ ニ ロ ン 高 秀 成 / 訳
A I に 法 的 人 格 を 付 与 す る —— 人 工 的 な 構 想 か ? ——	十	フ ィ リ ッ プ ・ シ ョ ウ イ レ 大 島 梨 沙 / 訳
将 来 世 代 は 法 的 な 「 人 」 た り う る か ?	十	ジ ャ ン ・ バ テ イ ス ト ・ ス トー 坂 卷 晴 菜 / 訳

判例研究

〔商法〕

商法研究会

- | | | | |
|-----|--|---------|-------|
| 六五四 | 上場会社における第三者割当ての方法による新株発行について不公正発行を理由とする差止仮処分が認められなかった事例 | 二
三 | 堀井拓也 |
| 六五五 | 分配可能額の存在を仮装経理し社会通念上相当額を超える取締役の報酬を支払うことは、分配可能額規制の実質的潜脱として許されないとした事例 | 三
八 | 大島一輝 |
| 六五六 | 旧アルプス電気・アルパイン間の株式交換無効請求事件 | 四
一〇 | 柳明昌 |
| 六五七 | 技術的基準に適合しない子会社の製品の出荷に関して親会社取締役の責任が認められた事例 | 五
二 | 遠藤元一 |
| 六五八 | 監査法人において社員が脱退した際の持分払戻額の算定方法と監査法人の商人性 | 六
四 | 隅谷史人 |
| 六五九 | 少数株主を締め出すこととなる株式併合決議について決議方法が著しく不正なときに当たるとして株主総会決議取消しが認められた事例 | 七
五 | 杉田貴洋 |
| 六六〇 | 商事売買について売主に重過失がある場合には商法五二六条三項の売主の悪意と同視できるとして責任を認めた事例 | 八
五 | 長畑周史 |
| 六六一 | 簡易株式交換手続に対する株主の反対通知のための個別株主通知の要否とその時期 | 九
九 | 久保田安彦 |
| 六六二 | ストックオプションとして付与した新株予約権の無償取得の機会を奪われた会社の損害と元代表取締役の任務懈怠責任 | 十
九 | 堀井拓也 |
| 六六三 | 有限責任事業組合の組合員の固有財産に対する強制執行の可否 | 十二
三 | 杉田貴洋 |

〔最高裁判事例研究〕	民事訴訟法研究会
------------	----------

四七六 令和五 2（民集七七卷七号一七五六頁）	六 三 川 嶋 隆 憲
-------------------------	-------------

〔民集未登載最高裁判事例研究〕	民事訴訟法研究会
-----------------	----------

57 当事者双方が口頭弁論期日に連続して出頭しなかった場合において、訴えの取下げがあつたものとみなされないとした原審の判断に民訴法二六三条後段の解釈適用を誤った違法があるとされた事例	四 二 七 高 田 賢 治
---	---------------

最高裁令和五年九月二十七日第三小法廷決定

〔下級審民事事例研究〕	民事訴訟法研究会
-------------	----------

84 再生手続開始後の信用組合組合員の脱退に基づく出資金返戻請求権を受働債権とする相殺が民事再生法九二条一項・九三条一項一号により許容されないとした事例	九 一 三 高 田 賢 治
--	---------------

大阪高裁令和五年一月十九日判決

紹介と批評

山本直子『多文化共生』言説を問い直す	三 五 関 根 政 美
--------------------	-------------

―日系ブラジル人第二世代・支援の功罪・主体的な社会編入―	三 五 関 根 政 美
------------------------------	-------------

ベフルーズ・ブチャーニー（一谷智子・友永雄吾監訳）『山よりほかに友はなし―マヌス監獄を生きたあるクルド難民の物語―』	七 五 関 根 政 美
--	-------------

林秀光著『中国共産党と三峡ダム―国家プロジェクトの政治過程―』	十 五 倉 敏 浩
---------------------------------	-----------

特別記事

吉村典久教授略歴・主要業績	一
陶陽子君学位請求論文審査報告	二
原科颯君学位請求論文審査報告	二
法学研究第九十七卷(自一号至十二号) 総目次	三
葉晨陽君学位請求論文審査報告	八
岡部克哉君学位請求論文審査報告	八
王禹君学位請求論文審査報告	八
堀田主君学位請求論文審査報告	九
小南有紀君学位請求論文審査報告	九
山本みずき君学位請求論文審査報告	九
高田久実君学位請求論文審査報告	九
令和七年度慶應法学会シンポジウム「戦後八〇年」	十一
岩谷十郎教授略歴・主要業績	十二